

# 大雪山の火山活動解説資料（令和4年7月）

札幌管区気象台  
地域火山監視・警報センター

火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。  
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

## ○ 活動概況

### ・ 噴気など表面現象の状況（図1-①、図2）

監視カメラによる観測では、旭岳地獄谷爆裂火口の噴気の高さは火口上200m以下で経過しており、噴気活動は低調な状態です。

### ・ 地震及び微動の発生状況（図1-②③、図3～4）

13日に地獄谷爆裂火口付近の浅い所で発生したと推定される火山性地震が一時的に増加し、27回発生しましたが、それ以外の期間は少なく、地震活動は低調な状態です。

火山性微動は観測されていません。

### ・ 地殻変動の状況

一時的な火山性地震の増加がみられた13日頃も含めて、地獄谷爆裂火口付近の傾斜計（旭岳石室観測点）では火山活動の高まりを示すような特段の変化は観測されませんでした。

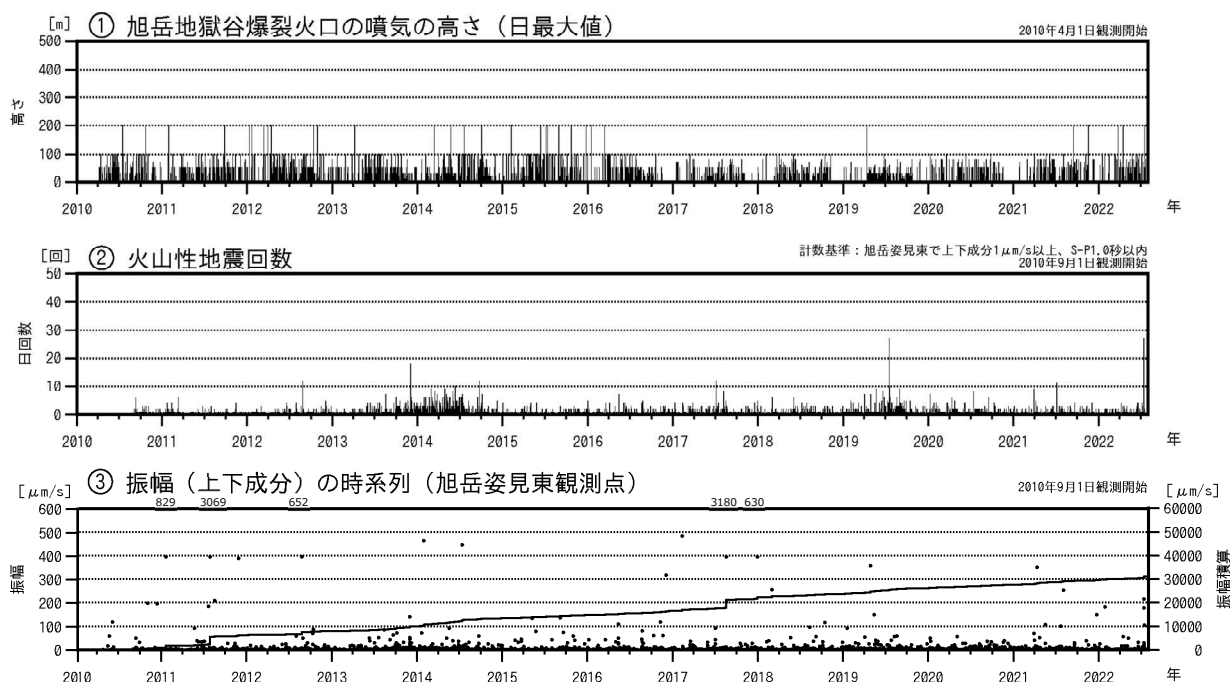


図1 大雪山 火山活動経過図（2010年4月～2022年7月）

この火山活動解説資料は気象庁のホームページでも閲覧することができます。

[https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています。

次回の火山活動解説資料（令和4年8月分）は令和4年9月8日に発表する予定です。



図2 大雪山 西側から見た旭岳の状況（忠別湖東監視カメラによる）

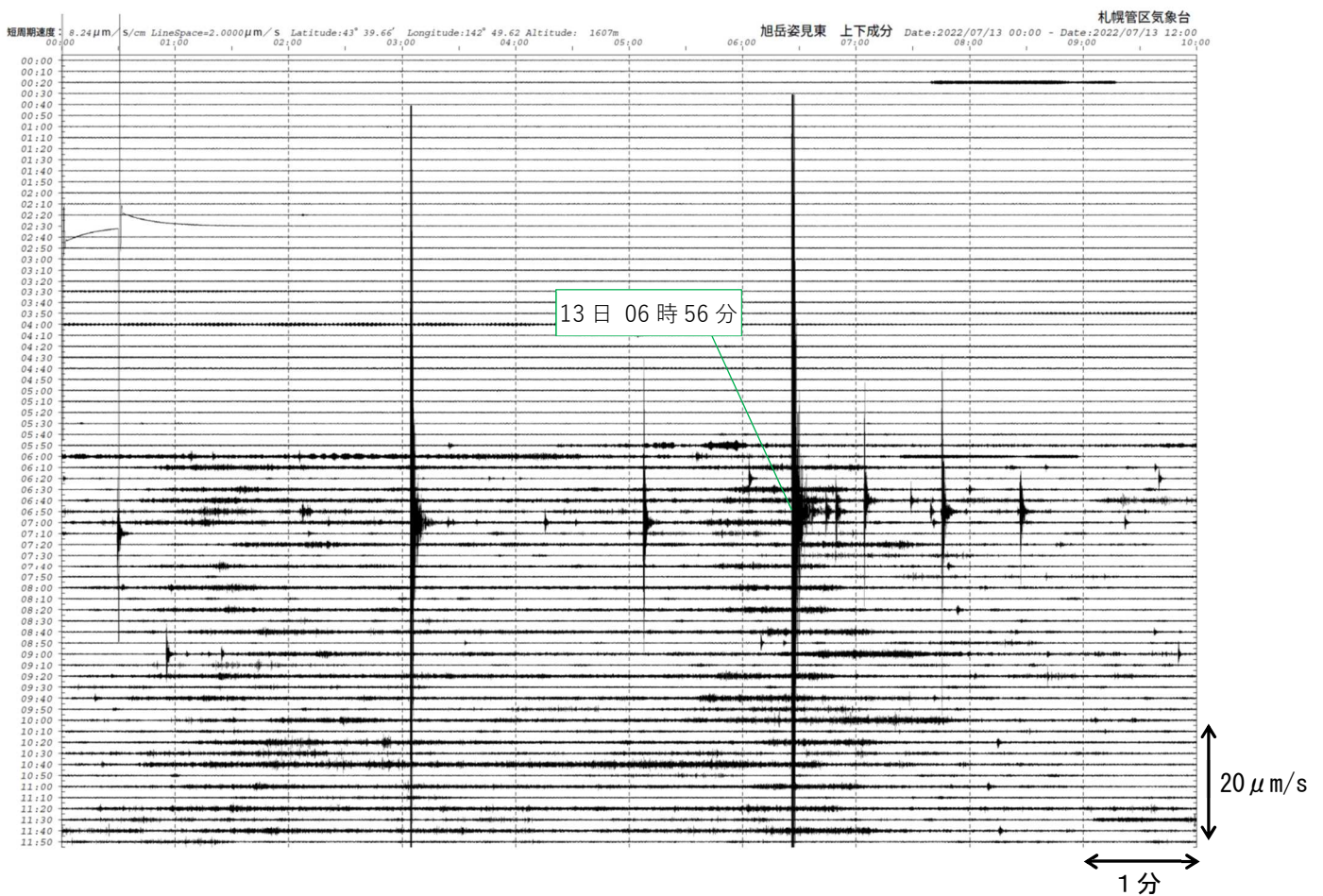


図3 大雪山 火山性地震の発生状況（旭岳姿見東観測点速度波形上下成分 7月13日00~12時）

06時56分の地震など一部の振幅が比較的大きな地震は、振り切れて表示されています。

- ・主に13日06時から10時頃にかけて増加しました。

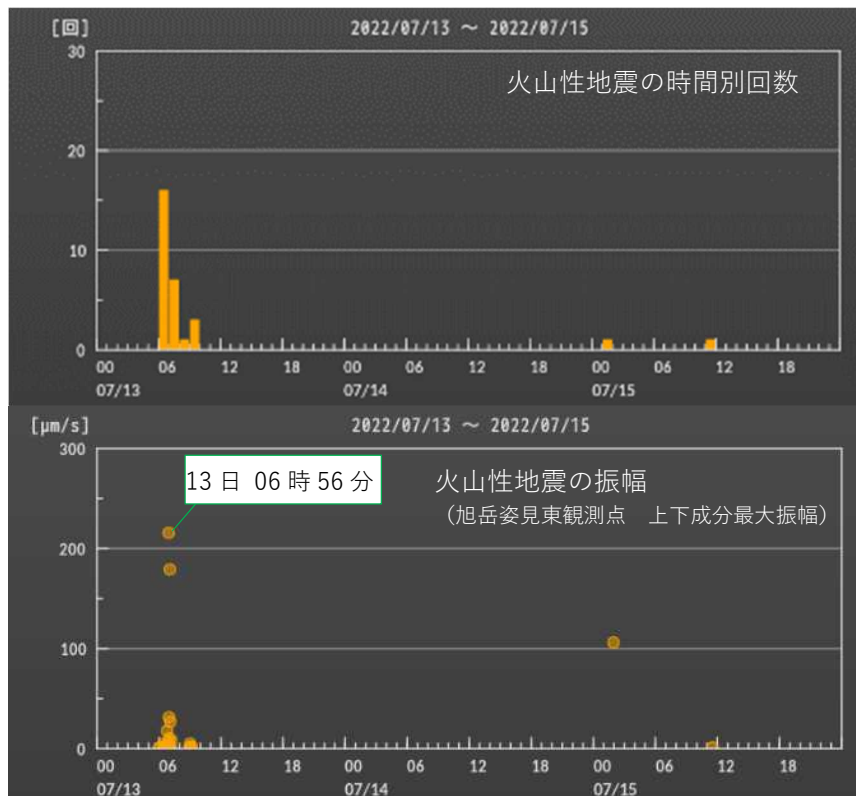


図4 大雪山 火山性地震の時間別回数と最大振幅の推移 (旭岳姿見東観測点 速度上下成分 7月13日~15日)

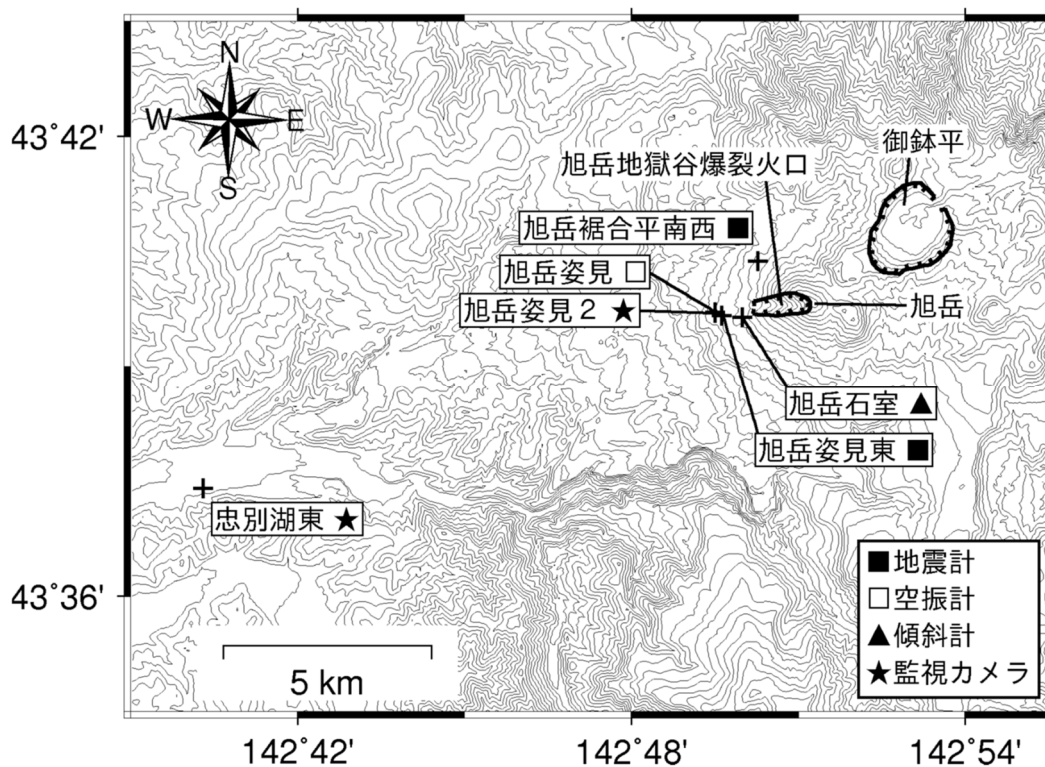


図5 大雪山 観測点配置図

+印は観測点の位置を示します。